

編集にあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。また、復旧・復興作業をされておられる地元の方々、ならびに救援に駆けつけておられる方々のご努力に深く敬意を表します。

東日本大震災は地震と巨大な津波を伴ったことにより未曾有の災害となり、沿岸は壊滅した地域もあり、また約15万人以上が避難生活を余儀なくされています。また地域によっては医療機関や保健所などが被害を受けているため外部から様々な医療従事者が支援に入り、立て直しが行われています。本書はこれから現地に入る医療従事者が知っておきたいエッセンスを短時間で学ぶことを目的としています。そのため、既存の様々な資料をもとに日本や現地の情報に合わせてまとめを行い「10のポイント」といった形式をとりました。

1章では、災害に関する総論的知識を紹介しました。2章では、まず被災者を支援するとして、被災者の安全や心身の健康、そして特に課題となる感染症に対する予防策を取り上げました。3章では、現場に入る医療従事者だけでなく、今後増えるであろうボランティアや作業者の健康を守るための対策や知識を紹介しました。これまでに、災害後にこうした方々の健康が害されたことが報告されていますので、ボランティアや作業者の健康を守るための啓発が求められます。もちろん医療従事者は自分自身を守ることを忘れてはなりません。4章では実際に東日本大震災の現場で医療従事者をコーディネートしたり、現場で活動をした方々にこれから支援に入る医療従事者に伝えたいことを紹介いただきました。そして5章では現段階では必要ないかもしれませんが、やがて起こりうる新たな災害の直後の対応を今回の教訓をもとにまとめました。

被災地といっても、場所によって様々です。未だに電気も水道もガスもない地域もあれば、すでに日常生活ができているところもあります。また時が

経てば状況も変わります。本書では限られた紙面であることから共通する事項を中心に上げました。個別の対応については現場の担当者とはよく相談されるとよいと思われます。

本書が、支援者の、そして医療従事者、ボランティア、作業者の健康が守られ一日でも早い復興や復旧のお役に立てればこの上ない喜びです。また、本書のすべての執筆者のご賛同のもと、本書の印税のすべては津波遺児支援のために寄付されます。本書は、震災直後にはじめたホームページ「津波・地震において自分、家族、同僚、地域の健康を守るヒント集」をもとに出版されました。個人ではじめたブログですが、その後多くの方の協力を得て、最終的には書籍となりました。産業医学推進研究会からの助成によりホームページの拡充することができ、また技術的な支援をいただきましたことに感謝します。また、本書が世に出るきっかけを作ってくださった企画部岩松宏典氏に感謝します。

2011 年 5 月

編者ら

津波・地震において自分、家族、同僚、地域の健康を守るヒント集

<http://kojiwada.blogspot.com/>

<http://square.umin.ac.jp/ohhcw/>

執筆者一覧（執筆順）

和田 耕 治	北里大学医学部公衆衛生学教室講師
木根原良樹	(株)三菱総合研究所科学・安全政策研究本部 社会イノベーショングループ主席研究員
石 井 和	(株)三菱総合研究所科学・安全政策研究本部 社会イノベーショングループ主任研究員
平 川 幸 子	(株)三菱総合研究所科学・安全政策研究本部 社会イノベーショングループ研究員
滝 澤 真 理	(株)三菱総合研究所科学・安全政策研究本部 社会イノベーショングループ研究員
藤 内 修 二	大分県福祉保健部健康対策課課長
高 山 義 浩	沖縄県立中部病院感染症内科
尾 島 俊 之	浜松医科大学健康社会医学講座教授
岩 室 紳 也	公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長
田 中 完	新日本製鐵(株)名古屋製鐵所産業医
江 口 尚	京セラ株式会社滋賀蒲生工場健康管理室産業医
末廣有希子	株式会社リコー産業医
松 井 亜 樹	パナソニック健康保険組合産業衛生科学センター
上 原 里 程	自治医科大学公衆衛生学准教授
野 口 克 彦	TOTAL-Conditioning Lab. 代表 パーソナルトレーナー
西 大 輔	国立病院機構災害医療センター精神科
白川美也子	昭和大学精神医学教室
太 田 寛	北里大学医学部公衆衛生学 兵庫県立大学看護学部
ライオン(株)社員有志ボランティア	
國 島 広 之	東北大学大学院感染症診療地域連携講座講師
立石清一郎	産業医科大学産業医実務研修センター
丸 山 崇	産業医科大学産業医実務研修センター

田 中 宣 仁	産業医科大学産業医実務研修センター
尾 土 井 悠	産業医科大学産業医実務研修センター
森 晃 爾	産業医科大学産業医実務研修センター
谷 口 初 美	産業医科大学医学部微生物学教授
吉 川 徹	財団法人労働科学研究所副所長
櫻 木 園 子	(財)京都工場保健会産業保健推進部医長
岩 根 幹 能	(財)和歌山健康センター
荒 薦 優 子	三菱電機(株)冷熱システム製作所産業医
尾 崎 将 之	聖マリアンナ医科大学救急医学
河津雄一郎	株式会社平和堂健康管理室統括産業医
奈良井理恵	マツダ株式会社健康推進センター産業医
堀 愛	(株)東京ガス人事部安全健康・福利室産業医
多 田 隈 潔	プライムアース EV エナジー(株)健康管理室産業医
西 本 真 証	産業医科大学産業医実務研修センター
石 丸 知 宏	産業医科大学産業医実務研修センター
黒石真紀子	西日本旅客鉄道株式会社健康増進センター
田 中 優 子	和歌山労災病院脳神経外科医長
佐々木亮平	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科
富 塚 太 郎	ハーバード公衆衛生大学院武見国際保健プログラムフェロー
久 保 達 彦	産業医科大学医学部公衆衛生学講師
上 田 悦 久	シーマ・ラボ・ジャパン株式会社代表取締役
橋 口 克 頼	パナソニックエレクトロニックデバイス(株) キャパシタビジネスユニット健康管理室
伊 藤 裕 康	三菱樹脂株式会社社長浜工場総務部健康管理 G
黒 田 玲 子	東京大学環境安全本部産業医

本書の印税のすべては
「あしなが育英会」に
寄付されます。